

(提案様式 1)

平成 24 年 1 月 17 日

提 案 書

申請団体名 ふくしま建築集団
代表会社名 遠藤知世吉建築設計工房
代表者名 遠藤知世吉
代表者住所 福島県福島市森合字西養山 15-1
電 話 : 024-536-4464
F A X : 024-536-4468

主な活動地域 (複数ある場合は優先を付けて , … , と表示してください)
会社の現住所ではなく、住宅供給活動を行う地域としてください

喜多方	県北	相双
会津若松	県中	
南会津	県南	いわき

団体内の総会社数 (12 社)
総業種数 (7 種)

	代表設計事務所	代表工務店	林業・木材関係 事業者
会社名	遠藤知世吉建築設計工房	株式会社渡辺工務店	丸三木材株式会社
住所	福島県福島市森合字西養山 15-1	福島県伊達市梁川町字小梁川 27-1	福島県二本松市小浜字鳥居町 27-3
電話番号	024-536-4464	024-577-0409	0243-55-2255
代表者名	遠藤 知世吉	渡邊 武	前田 英俊
設計事務所登録番号 / 建設業登録番号 / 木材業者登録番号	第 181646 号	(特-19)第 1715 号	第 13003 号

(提案様式 2 - 1)

連携団体内会社一覧

設計事務所 <u>2</u> 社 提案様式 2 - 2 に記載した数を含む				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	主な分野
1	遠藤知世吉建築設計工房	福島市	遠藤 知世吉	
2	有限会社 空間設計舎	郡山市	横川 弘道	
3				
4				

施工 <u>3</u> 社 提案様式 2 - 2 に記載した数を含む				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	職種
1	株式会社渡辺工務店	伊達市	渡邊 武	
2	桜田工業株式会社	田村市	桜田 善保	
3	有限会社デザインハウス	会津若松市	吉川 昌昭	
4				

林業・製材業 <u>2</u> 社 提案様式 2 - 2 に記載した数を含む				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	業種
1	丸三木材株式会社	二本松市	前田 英俊	
2	株式会社ツボイ	郡山市	坪井 道子	
3				
4				

資材メーカー _____ 社 提案様式 2 - 2 に記載した数を含む				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	主な取扱
1				
2				
3				
4				

宅建業 <u>2</u> 社 提案様式 2 - 2 に記載した数を含む				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	備考
1	グリーン興研株式会社	福島市	松田 高吉	
2	(株)ナカノコーポレーション	郡山市	加藤 隆治	
3				
4				

(提案様式 2 - 2)

その他 <u>3 社</u> 提案様式 2 - 1 に記載した数を除く				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	業種
1	武田登記測量事務所	福島市	武田 真徳	土地家屋調査士
2	白坂行政書士事務所	福島市	白坂 敦子	行政書士
3	郡司総合会計事務所	郡山市	郡司 洋一	司法書士
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

提案様式 2 - 1 に記載できない会社を記入してください。

今後、連携を検討している業種及び会社数

業種	会社数	業種	会社数
設計事務所	4		
工務店	6		

団体の活動内容（実績）

団体の過去３年間における活動内容 【 住宅には『木造公営住宅』含む 】

1.年間住宅設計棟数（団体内の設計事務所合計の3年間平均）

11棟 うち、設計性能評価取得 0棟

うち、長期優良住宅の認定 0 棟

2. 年間住宅新築施工棟数（団体内の工務店等合計の3年間平均）

24 棟 うち、建設性能評価取得 0 棟

3. 年間住宅増改築施工棟数（団体内の工務店等合計の3年間平均）

30 棟

4. 年間土地販売件数（団体内の宅建業等合計の3年間平均）

54 件

5. 県産材・地域材の活用実績（ をつけてください）

a. 材料の半分以上は県産材・地域材を活用 (b) 建て主の要望に合わせて対応

c.材料があれば県産材・地域材を活用 d.県産材・地域材は活用したことはない

6.再生可能エネルギーの導入（ をつけてください）

a. ほぼ100%導入している (b) 建て主の要望に合わせて対応

c.利用したことはない

7. 景観、地域特性への配慮（項目ごとに をつけてください）

(a). ほぼ100%配慮している b. 建て主の要望に合わせて対応

c. 配慮したことはない

8. 各種手続き等代行（項目ごとに をつけてください）

登記 減税 融資 保険

☐ (a.) ☐ (a.) ☐ (a.) ☐ (a.) 代行（協力）を常に行っている

b. b. b. b. 建て主より依頼があればしている

c. c. c. c. 行っていない

9. 施工した住宅の維持管理（ をつけてください）

(a) 期間を定めて点検

b. だいたいの期間が過ぎたら点検

c. 建て主の依頼に合わせ点検

d.点検業務は行わない

10. 住宅情報履歴の作成（ をつけてください）

(a) 新築だけでなく、増改築時も作成 b. 新築時のみ作成

c. 要望があれば作成

d. 作成したことがない

11. その他、実績の PR

「仮設住宅建設」「被災者の住宅相談」「長期優良住宅」「県産材の安定確保」

「若手の育成」、「地域産業の活性化に寄与する活動」、「団体独自の技術を開発・普及」

「省エネルギー・再生可能エネルギーの活用」

1. 連携体制の規模、多様性

(基本方針)

より良い復興住宅建築のため、素早い意見集約が可能な少数精鋭で始め、効率的に県全域をカバーできる陣形をとる。今後、必要供給数の動向をみながら、現メンバーが核となり連携体制を拡大していく。

(具体的手法)

伊達市の工務店が県北県中と相双地域を、田村市の工務店が県中県南といわき地域を、会津若松市の工務店が会津地域の施工をそれぞれ担当し、県内全域での供給を行う。設計事務所は福島市と郡山市におき、県内全域各地の建主との打合せに対応する体制とする。

各地区メンバー中心に県内全域で同志を募り普及させ、その精神を全国に広める。

建築現場での普及活動を実施、地元建設関係者に対しても普及活動を実施する。

2. 事業の実現性(供給計画 3カ年程度)

(基本方針)

各社の実績をベースに実現可能な供給計画をたてる。

各社のノウハウ(住宅設計一筋 30 年 2011 年度グッドデザイン賞受賞設計事務所、社員に大工を連ねる大正創業の工務店、木造応急仮設住宅建設の工務店 等々)を最大限に活かし、迅速で高品質な住宅の供給を実現する。さらに連携体制を拡大させて供給計画も増大させる。

(具体的手法)

建主との契約は設計と施工を別契約とし、各々の役割としての独立性を尊重し住まい手にとってより良い住まいづくりの体制とする。

工期短縮やコスト負担軽減のために、納まりの標準化、部材のプレファブ化等を行い、必要に応じて、その部材を県外で作成するなどの応援施工も可能なものとする。

設備等を含めた仕様を予め決めたマスタープランを作成。高品質の中のコスト削減を実現する規格仕様型復興住宅とする。

住まいづくり手引き、標準設計図書、構造計画ルール、工事費概算システム等を整備し、現場の混乱による工事の遅延を事前に防ぐ。

供給計画は作業への順応や広報活動を考慮して、1 年目 100 棟、2 年目 200 棟、3 年目 300 棟と段階的に拡大していく。

団体解散後のアフターサービスは担当設計事務所、工務店が協力して行う。

3. 復興住宅コンセプト(維持管理、プラン、環境対応、コスト、地域性等)

(基本方針)

地域に根ざした構造による、故郷の良さを再認識できる住まいを目指します。2案あるマスタープランは高齢者対応型住宅とし、シンプルで人の気配が感じられる開放的な空間を造る。また柱・梁を表す等、内外装に県産木材を多用し、地元の大地で育った木材の温かさと優しさに包まれた住宅。マスタープランは平屋のボリュームでありながら長さ4Mの柱を使うことにより、2階空間を確保する計画とする。2階は仕上げを行わずフリースペースとし、将来の同居やゲストルームなどに使える未来への希望の空間とした。

(具体的手法)

200角の県産杉柱を使い、内外真壁の呼吸する福島らしい木構造とする。
一般的に流通している長さ4Mの柱材を使用し2階建てを実現。シンプルな形状に県産木材がアクセントとなる外観で福島らしさを演出する。
吹き抜けとダイレクトゲイン蓄熱床等を用い、高断熱で日射・通風を活かす自然を味方にした快適な家とする。
地元大工の手で建設可能な、地域に根ざした木造軸組構造とし、県内全域への普及を図り、その精神を全国に伝える。
マスタープランは2階を内装仕上げせず、コスト負担低減を図ると共に、住みながら住まいを成長させて行く仕組みを提案。「家は買うものではなく造りあげるもの」。
マスタープランをベースとしながら、敷地・家族に合わせ柔軟に対応し、各設計事務所が中心となり資金面を含めた計画をする。「住宅建築は、敷地と住み手の研究から」を実践する。
材料等の共同折衝、共同購入により高品質のなかでコスト削減に努める。
設計・工事両者で1年点検を実施し、以降は建主の要請により実施する。
各所に天井・床下点検口を設け、1階床下は潜れるスペースを確保するなど、住まいの自主点検、維持管理がしやすい作りとする。

4. 品質、性能確保

(基本方針)

建主との契約は設計と工事を別契約とし、しっかりとした工事監理ができる体制をとる。さらに耐震、断熱、耐久性を高め、自然を味方にした計画・構造とする。

(具体的手法)

バランス良く耐力壁を配置し、耐震壁量は法律の150%以上とする。
長さ4Mの通し柱を通常の2倍以上の本数を建て、低軒高の安定した構造で躯体を支える。
ベタ基礎、通気層構造、軒の出を深く(970mm)など耐久性を高める構造とする。
建主との契約は設計と工事を別契約とし、設計者の独立性を保ち設計・工事監理を行う。
工事期間中、設計者が現場立会い確認・打ち合わせを6回以上行う。
トラブル発生の場合は基本的に担当設計事務所・工務店にて対応する。
団体継続時も解散後も、担当設計者・建設業社がアフター対応を行う。
住宅瑕疵担保責任保険への団体加入や、住宅建築履歴書等の整備も検討する。

5. 県産材・地域材の活用

(基本方針)

構造・仕上材に、できる限り県産木材を使用し、その特徴を活かした呼吸する住まいを造る。また木造応急仮設住宅の活用も積極的に進める。

(具体的手法)

200 角県産杉柱使用による内外真壁造り。

柱・梁の表し、内装仕上げ(床・壁・天井)にも県産杉板を積極的に使用。

メンバーの材木店(年間プレカット実績 1200 棟)が中心となり、安全な県産材の安定的流通ルートを確保する。

住宅付属建物のガレージ、倉庫、または事務所・店舗等に木造応急仮設住宅を利用する。またデッキ・塀などの外構にも仮設住宅資材を積極的に活用していきたい。

さらにその他の活用方法の研究を行う。

6. 各種手続き代行

(基本方針)

各社のノウハウを活かし、迅速な手続きの代行を行い建主の負担を最小限にする。

(具体的手法)

資金計画、確認申請、手続きスケジュール管理等・・・設計事務所(一部銀行相談)

土地に関する各種手続き・・・不動産業

測量、登記、減税手続きの書類作成等・・・司法書士、土地家屋調査士

火災保険の紹介等・・・工務店

原発関係・減税手続き等書類・・・行政書士、司法書士

など

7. ふくしま(地域)らしさの取り入れ

(基本方針)

人・敷地・地域・風土の調査・研究の元に住宅設計を行い、県産材使用による地元匠の技で、自然を味方にした福島らしい住宅を造る。

(具体的手法)

県産 200 角杉柱の真壁に、軒の深い切妻屋根のシンプルな外観。

地元大工の手で県産材活用の地域に根ざした木造軸組構造とする。

杉板の内装や、柱・梁の表しにより、温かく優しい福島産木材に包まれた空間。

一般流通している長さ 4M 柱を通し柱とし、平屋のボリュームで 2 階建てを実現。

採光や通風を考慮した開口部設置など、自然を味方につける計画。

8. 地域における先導性(活動)

(基本方針)
地元大工の手による地域に根ざす工法とし、部材のプレファブ化などの新技術の取り入れにより、一見シンプルながらきらりと輝く美しい建物を、一棟一棟までいに設計し施工する。その考えを県内に広め同志を増やし、さらにはその精神を全国に伝えたい。
(具体的手法)
マスコミ等を活用し団体として県内全域にアピールする。 建築現場での普及活動を実施、地元建設関係者に対しても普及活動を実施。 インターネットを活用した、広報活動を行う。 県内各地で説明会、相談会、展示会、オープンハウスを積極的に開催。 国の補助資金等を用い、団体の核となる展示場の建設も目指す。

9. 原子力事故及び風評被害対応

(基本方針)
できうる敷地内除染をすべて行い、材料搬入時と施工後に放射線測定を実施、施主に開示する。当然、設計段階でも放射能対策を検討する。
(具体的手法)
基本的に敷地は10cm以上の盛土をし、実施前と後の放射線量の測定を行う。 木材等材料納入時と施工後に放射線量の測定を行い記録し、建主に開示する。高い値の場合は材料変更等の適切な処置を行う。 土間・サンルームの半屋外空間を作り、外と室内の緩衝材的空間の確保を行う。屋内で洗濯物を干す際にも活用できるようにする。 外部使用具を室内に持ち込まなくて済むよう、玄関に大型収納を設置する。

10. 省エネルギー、再生可能エネルギーの活用

(基本方針)
省エネルギー住宅とし、再生可能エネルギーを積極的に活用、自然を味方につける福島らしい住まいとする。
(具体的手法)
軒を深くし日差しの調整や風道を作るなど、福島を自然を味方につけた呼吸する住まいとした。 省エネ等級4を確保した高断熱な住まいの実現。 天 井:グラスウール T=200 壁:ロックウール T=100 床:ポリスチレンフォーム 3種 T=100 外部開口:アルミ樹脂複合サッシ ガラス 5+A12+5 ダイレクトゲイン蓄熱床と吹き抜けによるパッシブソーラーシステムの採用。 乾燥木材使用、外壁内通気層・小屋裏通気、ベタ基礎による床下防湿、基礎高さ確保等により木材の腐朽・防害を防ぎ建物の長寿命化を図る。 一部に木造応急仮設住宅の資材再利用を図る。 太陽光や太陽熱、風力、バイオマス、地熱等のエネルギー活用を積極的に検討活用する。 南外壁に突出し梁を設置し、日除けの設置や物干しなどに利用可能とした。

ふくしま建築集団

福島

の自然を味方につける

真壁の家

私達は福島県の危機に建築技術を手を立ち上げります。その住まい造りは家族と土地の個性を活かし、周辺地域をも元気にするものです。一棟一棟を丁寧に造り、その質を保ちながら求められるスピードを可能とするために、設備・資材の規格化や納まりの標準化、部材のプレfab化を図る。それによって多くの住まいを設計・施工可能な建築体制をとり、その精神を全国に伝えたい。

200角の県産杉柱を使用、内外真壁造りとし、呼吸する福島らしい木構造とする。
一般流通材の長さ4mを通し柱とし2階建てを実現、シンプルな形状に県産木材がアクセントとなる外観。
高断熱とし日差しと通風を活かす、自然を味方にした快適な家。(吹き抜け・ダクトイン蓄熱床等)
高齢者対応住宅であり1階をメインのフロアとした。2階リビングの内装仕上げは本計画では無しとする。
県産杉材を多用し、地元の大地で育った木の温かさと優しさに包まれた住宅とした。
施主との契約は設計と工事を別契約とし、設計者の独立性を保ち設計・工事監理を行う。
設計・施工者でタイアップし、放射線測定等も行いながら工事にあたり、完成後のアフターフォローも実施。
地元大工の手で建築可能な、地域に根ざした工法とし、県内全域の普及を目指す。

設計概要	
構造	べた基礎 県産材木造軸組工法 真壁造り(柱一等材料)
屋根	屋根:T=0.4ガルバリウム鋼板葺き、又は平形スレート葺き(海沿い地域)
外壁・軒天井	外壁:サイディング張り(通気層工法)、 軒天井:T=12杉板張り
外部開口部	アルミ樹脂複合サッシ ガラス5+A12+5
断熱材	省エネ等級4確保 天井:グラスウールT=200 壁:ロックウールT=100 床:ポリスチレンフォーム3種T=100

室内仕上概要			
部屋名	床	壁	天井
居室・吹抜	杉板厚30・タイル張り	杉板厚12、和紙貼付	和紙貼付
キッチン	杉板厚30・タイル張り	和紙貼付	和紙貼付
風除室	杉板厚30・コンクリート金網	杉板厚12張り	杉板厚12張り
洗面室・トイレ	杉板厚30	杉板厚12張り	杉板厚12張り
浴室	ユニットバス(引き戸タイプ)		
廊下・階段	杉板厚30	和紙貼付	和紙貼付
2階リビング	杉板厚30	厚12.5石膏ボード張り素仕	厚9.5石膏ボード張り素仕

